

2018年 日本沙漠学会秋季シンポジウム

沙漠化・土地荒廃環境修復の ために必要な植物の特質

乾燥、半乾燥地における沙漠化の進行は、気候の要因のみならず人間活動により加速しています。加えて様々な気候下において土地は人間活動による劣化により荒廃が進んでいます。本シンポジウムでは植物栽培により沙漠化・土地荒廃の進行を妨げ、修復・回復を目指すために必要とされる植物の特性とは何か、また栽培しながら農業として成り立つ形質は何か、環境修復の実際の取り組みについて3名の研究者を招いて話題提供をいただき、パネルディスカッションで参加者の皆さんと忌憚のない意見交換と議論を目的として開催いたします。

日時：2018年10月27日(土)14:00～17:00

場所：鹿児島大学 農学部 農・獣医共通教育棟 307講義室

鹿児島市郡元1-21-24 (郡元キャンパス)

プログラム

14:00～14:10 開会挨拶および主旨説明

14:10～15:40 話題提供

講演者

鹿児島大学農学部准教授 下田代智英氏

「作物の根の可塑性と機能」

鹿児島大学農学部教授 志水勝好氏

「塩生植物、耐塩性植物の特質と農業的環境修復」

秋田県立大学 生物資源科学部准教授 石川祐一氏

「重金属や有機化学物質の植物への集積特性と、環境修復への適用」

司会

鹿児島大学農学部教授 遠城道雄氏

15:40～16:00 休憩

16:00～16:50 パネルディスカッション

16:50～17:00 総括

問合せ先

鹿児島大学農学部 志水勝好 shimizuk@agri.kagoshima-u.ac.jp

写真中央：中国吉林省の過放牧によるアルカリ沙漠。
写真右：中国内モンゴ塩湖に自生するアッケシソウ。